

絆

K I Z U N A

2023 JANUARY

JAグループ青森 月刊広報誌 [913号]

1



いいこと、たくさん。

通帳レス口座が便利だぞう。

POINT 1

紛失・盗難のリスクが無い

お出かけ前に通帳を探すこともなく
万が一の時も安心

POINT 2

資源節約でエコ

紙資源などを節約できて
環境にやさしくエコ

POINT 3

10年間分閲覧可能

入出金明細PDFが
最大10年間分閲覧可能

©よりぞう

JAバンクアプリから切り替えできるぞう。



JAバンクアプリ

アプリをダウンロードして簡単登録！いつでもすばやく
口座残高のチェックや明細の照会ができるサービスです。残高照会 / 入出金明細照会 / 投信残高照会 /
定期預入明細照会 / PayB (払込票決済) / 通帳レス口座

アプリのサービス画面から、JAネットバンクにアクセスできます。ダウンロードはこちら

インターネットにアクセスするだけで、
振込や税金・公共料金払込等さまざまな
取引ができるサービスです。振込・払込 / 定期貯金 / ローン繰上返済 /
カードローン/マネーフォワードfor JAバンク(家計簿アプリ)

アクセスはこちら

●「投信残高照会」「通帳レス口座」「定期貯金」「ローン繰上返済」「カードローン」は、JAによってお取り扱いできない場合や、一部機能に制限を設けている場合、対象商品・案件が異なる場合があります。
●「マネーフォワード for JAバンク(家計簿アプリ)」は、株式会社マネーフォワードが運営しています。JAバンクの運営ではありません。お問い合わせは、株式会社マネーフォワードまでご連絡ください。

絆

1

目次

CONTENTS

年頭あいさつ	1	インフォメーション	8
JAグループ青森 JA組合長・常勤役員		【特別企画】2022年を振り返る	14
および連合会代表者等紹介	2	東北農政局通信あおもり	18
フラッシュ	6	輝き・催事カレンダー	19



ＪＡグループ青森四連
会 長

雪 田 徹

あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、組合員をはじめＪＡ役職員の皆様には、心からお喜び申し上げます。

昨年８月３日からの豪雨により、県内ではほぼ全域で甚大な被害となりました。被害にあわれた方々に心からお見舞い申し上げます。また、全国各県ＪＡグループより、ご厚情あふれるお見舞いの言葉と多分のお志を賜り、心より感謝申し上げます。

ＪＡと県連が力を合わせ、県等関係機関とも連携しながら、被災した農家・組合員が生産意欲を損なわないよう、営農継続に向けた対策を講じていく所存です。

さて、コロナ禍やロシアによるウクライナ侵攻、急激な円安の影響、自然災害の多発等により、「食」を支える「農」を取り巻く環境が益々厳しくなっています。生産現場では、依然として、輸入依存度が高い肥料、農薬、燃料等の高騰が続いており、営農継続が危ぶまれる危機的な状況にあります。国による「肥料価格高騰対策事業」が農業者に速やかに行き渡るよう、関係する機関の連携強化が必要であります。

また、飼料価格の高止まりが続く畜産・酪農や、冬場を迎え、燃油・電気を必要とする施設園芸など、生産者のコスト負担がこれ以上増加しないよう、必要となる予算措置を求めていかなければなりません。

政府は、1999年に制定した「食料・農業・農村基本法」の見直しに着手しました。基本法制定から20年以上が経過し、わが国の食料・農業・農村をめぐる環境が大きく変化するなか、将来にわたって国民の安全・安心を守るため、国内生産の増大を基本とした、食料・農

業・農村政策の確立が必要であります。

食料自給率の低迷や生産基盤の弱体、多発する自然災害など、「食」や「農」を取り巻くリスクが増大していることや、農業生産に係るコストが上昇しても農畜産物価格へは転嫁しにくい実態など、「食」と「農」に関する消費者等への理解醸成に向けた取組みを強力に展開していかなければなりません。

ＪＡグループでは、「国民が必要として消費する食料は、できるだけその国で生産する」という「国産国産」の考えを提唱して、全国的に様々な取組みを展開しています。生産者と消費者が手を携え、食料安全保障の強化に向けた具体的な行動につながっていくことを期待しています。

そのためにも、ＪＡグループが一体となって、生産現場の課題に応じた取組みを進め、消費者の皆様に安全で安心な農畜産物を安定供給するという使命を、引き続き果たしていかなければなりません。

ＪＡグループ青森では、昨年２月に開催した第29回ＪＡ青森県大会において、“持続可能な農業と地域の実現”を主題に、４つの重点目標（「食料・農業基盤の確立」「豊かな暮らしの実現」「組織・経営基盤の強化」「『食』『農』『協同組合』の理解醸成」）を掲げ、取組むことを決議しました。農家・組合員から評価が得られるよう、大会決議を着実に実践してまいります。

ＪＡをめぐる情勢では、総合的な監督指針の改正により、「自己改革の実践」「持続可能な収益性と将来にわたる健全性の確保」「早期警戒制度」への対応が求められています。中長期の収支シミュレーションにより、経営が悪化する見通しであれば、早め早めの改善策を立案・実践していくことが必要になります。県連として、ＪＡ経営の健全性を確保するため、不断の自己改革や早期警戒制度を踏まえた取組みをサポートしてまいります。

むすびに、令和５年は豪雨災害等乗り越え、農家・組合員をはじめＪＡ役職員の皆様が、健やかに笑顔あふれる一年になりますことをお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



● 青森地区

JA 青森



は せ が わ は る き
長谷川 春 樹
代表理事組合長



し か な い か つ ゆ き
鹿 内 克 之
代表理事専務
(総務担当)



た な か ま さ て る
田 中 正 輝
代表理事常務
(信用担当)



さ い と う み つ ろ う
齊 藤 光 朗
代表理事常務
(経済担当)

JA 青森



な り た し ん い ち
成 田 真 一
常勤監事

● 五所川原地区

JA つがるにしきた



し ぶ た に か つ し
澁 谷 勝 志
代表理事組合長



な り た は る み つ
成 田 春 光
代表理事専務
(信用担当)



や ま な か み つ は る
山 中 満 春
代表理事常務
(信用担当)

JA つがるにしきた



や ま や こう し
山 谷 綱 次
代表理事常務



き む ら ま さ ひ ろ
木 村 正 祥
常勤監事

JA ごしょつがる



や ま も と や す き
山 本 康 樹
代表理事組合長



さ い と う か つ の り
齊 藤 勝 徳
代表理事専務



の ろ し げ ま さ
野 呂 重 正
代表理事常務

JAでしよつがる



みうらかつひろ
三浦勝裕
常勤監事

弘前地区



あまないまさひろ
天内正博
代表理事組合長



おやまさと
小山悟
代表理事専務



さいとうかつのり
齊藤勝則
代表理事常務

JAつがる弘前



まるおかよしあき
丸岡義昭
代表理事常務



おおたしゅんいつ
太田俊逸
信用担当常務



なかたたくひこ
中田拓彦
常勤監事



おおばつとむ
大場勉
代表理事組合長



みかみりゅうき
三上隆基
専務理事

JA相馬村

JA相馬村



やまうちとしひこ
山内利彦
理事金融共済部長



くどうとしひろ
工藤俊博
代表理事組合長



なりたよしひと
成田義仁
代表理事専務
(総務管理担当)



たなかきゅうめい
田中究明
代表理事常務
(信用担当専任)



むらかみかつのり
村上勝憲
代表理事常務
(販売担当)

JA津軽みらい

JA津軽みらい



かとうかずお
加藤和夫
代表理事常務
(営農購買担当)



いちのへまこと
一戸誠
常勤監事



こがわおさむ
古川治
代表理事組合長



さとうひろあき
佐藤大朗
代表理事専務

JA常盤村養鶏



十和田地区

JA十和田おいらせ



はたけ やま かず お
畠 山 一 男
代表理事組合長



と さわ やす ひろ
斗 澤 康 広
代表理事専務



こ むかい ゆたか
小 向 豊
営農経済担当常務



たか や くにお
高 谷 邦
信用事業担当専任常務

JA十和田おいらせ



くり やま じゅん いち
栗 山 純 一
常勤監事



おと べ てる お
乙 部 輝 雄
代表理事組合長



てん ま かず ひろ
天 間 一 博
代表理事専務
(営農経済担当兼務)



むら やま じゅん いち
村 山 淳 一
代表理事常務
(金融共済担当)



の だ がしら かず よし
野田頭 和 義
代表理事常務
(酪農畜産担当)

JAゆうき青森

JAおいらせ



み かみ まさ ひろ
三 上 雅 浩
常勤監事



おき さわ しげ や
沖 澤 繁 弥
代表理事組合長



なか や しき かず お
中屋敷 一 夫
代表理事専務



ば ば ひで かず
馬 場 英 和
常務理事



すみ いし じろう
角 石二郎
常勤監事

八戸地区

JA八戸



みず こし ぜん いち
水 越 善 一
代表理事組合長



お ばら よし ひろ
小 原 良 洋
代表理事専務



わか ばやし まさ ひで
若 林 政 秀
代表理事常務
(営農・経済担当)



き むら てる お
木 村 照 男
代表理事常務
(信用・共済担当)

JA八戸



なか ざわ ゆたか
中 澤 裕
常勤監事

中央会・連合会



JA青森中央会



ゆき た とおる
雪 田 徹
代表理事会長



おお ば つとむ
大 場 勉
副会長理事



お やま ち か ら
小 山 主 税
常務理事

JAバンク青森



し みず まさ お
清 水 雅 夫
支店長



ほり い てる ひこ
堀 井 輝 彦
副支店長



おおく ぼ まさ や
大久保 正 也
副支店長

JA全農あおもり



くわ た のり ふみ
桑 田 徳 文
県本部長



ささ もり とし みつ
笹 森 俊 充
副本部長



なり た とも ひろ
成 田 具 洋
副本部長



ぬま た ひろ ふみ
沼 田 博 文
本部長



か さい しん じ
葛 西 真 司
副本部長

JAアオレン



お がさわら やす ひこ
小笠原 康 彦
代表理事会長



か さい みち ゆき
葛 西 亨 之
参事



かま た まさ ゆき
鎌 田 政 行
取締役センター長



く どう のり あき
工 藤 憲 明
副センター長

(株)青森県農協電算センター



フラッシュ

JA 青森



本年導入品種に手応え ミニトマト部会講習会(12/5)

JA 青森ミニトマト部会は、青森市で冬期講習会を開き、部会員や種苗会社職員ら19人が参加した。2022年産から導入した「サンチェリーピュアプラス」の栽培管理のポイントや23年産の安定生産に向けた準備について理解を深めた。

講師のトキタ種苗(株)職員は、「裂果が少なく強い耐病性を持つ。着果率も高く作りやすいが、蒸散が活発な品種のため、8月まで肥料と水を切らさない」と説明した。

JA ぎょつがる



率直な意見多数 農協事業に反映(12/2)

JA ぎょつがるは、若手・女性就農者を対象に役職員との意見交換会を開き、組合員の意思確認を行った。

管内で水稻、果樹、野菜を栽培する生産者で、就農10年以内の若手組合員11人が参加。

農協事業を利用しているなかでの率直な意見や、具体的な改善の提案があがった。特に農産物直売所の要望が多く、販売形態やコーナーの設置など、強い思いを伝えた。

農林水産省の職員との意見交換(11/21)

農林水産省の若手職員2名が、弘前市内の農村研修の締めくくりとして、JA 相馬村を訪れ、フルーツステーションなどの施設見学と青年部との意見交換を行った。

同JA 営農指導員の案内のもと、販売戦略や補助労働力確保など、リンゴ生産の状況や地域が抱える課題に理解を深めた。

シャイン剪定 来春の生長に期待(12/8)
JA つがるにしきたは、管内のほ場でシャインマスカット剪定講習会を開いた。
栽培1年目の生産者や来春から栽培する生産者が多く参加し、約50人が剪定方法について学んだ。
西北地域県民局農林水産部農業普及振興室の担当者が、主枝候補枝(第1主枝)を今年の伸長量の2分の1程度に切り詰め、植え付け1年目の剪定を実演した。



JA つがるにしきた

JA つがる弘前



パウダーアートに挑戦

ぬくもりホーム開催(11/29・30、12/1)

JA つがる弘前総務課くらしの活動係は、同JA 管内3か所で高齢者福祉活動「ぬくもりホーム」(ミニデイサービス)を開催した。

地域貢献活動の一環として、地域の高齢者に「一日を楽しく過ごせる憩いの場」を提供し、生きがい作りと仲間作りを支援している。参加者らは、色ごとに番号を書き入れた台紙のシートをはがし、8色の粉を振り掛け土鈴の形をしたウサギのパウダーアートを完成させた。

JA 相馬村



ＪＡ津軽みらい



販売額３年連続１億超（１２／９）

ＪＡ津軽みらいは、本店で２０２２年産桃精算報告会を開いた。生産者やＪＡ役職員約３０人が出席。同年産桃の生育や販売経過、販売額が３年連続で１億円を超えたことなどを報告した。

２２年産の販売額は１億２５３７万円となり、入庫数量は全体的に収穫量が増え、３万９１１１箱。生育については、玉伸びが良く、せん孔細菌病の発生も少なく、数量を確保することができた。

ＪＡゆうき青森



高校生 地域の農業について学ぶ（１２／６）

ＪＡゆうき青森六ヶ所営農センターは、県立六ヶ所高校１年生１８人を対象に職場見学を実施した。職場見学は、地元のＪＡや六ヶ所村役場の仕事の仕組みを知ることによって六ヶ所村の農業を理解することを目的に実施した。

職場見学では、ＪＡの事業についての説明や、六ヶ所村役場が農業にどのような形で関わっているかなどを各事業所の職員が説明をした。

ＪＡ十和田おいらせ



子牛管理品評会 飼育管理意欲強まる（１２／２）

ＪＡ十和田おいらせと十和田黒毛和種改良組合は、十和田市の三本木畜産農協で、子牛管理品評会を開いた。審査の結果チャンピオン賞は、雌牛の部で沢目喜代人さんが出品した「しらふく号」、去勢の部では、前川原正義さん出品の「大輝号」がそれぞれ受賞した。

雌牛の部でチャンピオンになった「しらふく号」は「発育が良く、体上線もきれい。雌牛としての能力が優れていた」と高い評価を得た。

ＪＡおいらせ



地域の人と交流を スワッグ作り（１２／１３）
 ＪＡおいらせ特産品開発研究会あ根つくくらぶは、同ＪＡ本店でスワッグ作りを開き、同会会員と一般の参加者、計９人が参加した。スワッグとはドイツ語で「壁飾り」、植物などを束ねて壁に吊るす飾り。
 参加者は、三沢産の稲穂をメインにドライフラワーや綿花のほか、クリスマスやお正月をイメージした飾りをまとめて束ねていき、それぞれのスワッグを完成させた。

ＪＡ八戸



コンニャク芋を作って食べて「おいしいね」（１２／６）

ＪＡ八戸女性部倉石地区は、五戸町立倉石小学校で４年生１２人と部員５人でコンニャクを作った。

コンニャクの材料となるコンニャク芋は、６月にＪＡ八戸青壮年部五戸支部の部員と定植し、１１月に収穫したもの。こんにゃく芋の皮をむき、おろし金ですりおろし、火にかけ、練り、丸める作業を行い、玉コンニャクを作った。

第47回青森県JA青年大会

県農業青年部協議会は12月1日、「第47回青森県JA青年大会」を青森市で開き、県内青年部員ら約90人が参加した。

JA青年の主張発表はJA十和田おいらせ青年部上北支部の坂本啓悟さん、JA青年組織活動実績発表はJA相馬村青年部の林崎樹さんが最優秀賞に輝いた。

最優秀賞受賞者は1月に青森県弘前市で開かれる東北・北海道ブロック青年大会に県代表として出場する。

最優秀賞の坂本さんは「日々勉強、これからに繋げたい農業」と題して、若い世代へ農業を伝えていく一人として、青年部での交流やJA、地域と連携することで人として成長できると発表。

林崎さんは「新事業と成長 ～共に歩んだ盟友～」と題し発表。青年部一丸となり、取り組んだ「もち米」作りの事業の失敗と成功から得た経験が組織活動の発展に繋がっていることが評価された。

大会では手作り看板コンクールとPR動画の表彰も行われた。手作り看板コンクールでは、JA十和田おいらせ青年部十和田湖支部が最優秀賞を受賞。PR動画コンクールはJAおいらせ青年部三沢地区が最優秀賞を受賞した。



▲最優秀賞に輝いた坂本啓悟さん（左から2人目）と林崎樹さん（左から3人目）

県青年部協議会創立70周年記念式典

県農協青年部協議会は12月1日、「青森県青年部協議会創立70周年記念式典」を青森市で開き、中央会や各連合会、県女性協、全青協の代表者や過去20年間の歴代委員長、県内青年部員ら約110人が参加した。

式典では、歴代委員長への表彰や記念誌「県青協70年史 一過去20年のあゆみを振り返って」の紹介などを行った。また、式典を記念し、タレントのルー大柴氏が「人生マウンテンありバレー

あり」と題し自らの人生観をユーモアたっぷりに講演した。

同協議会の成田啓輔委員長は「これまで青年部の歴史を作っていただいた先輩方に感謝しながら、次の世代へしっかりとバトンを繋いで行けるようがんばります」と熱い決意を述べた。



▲講演を行うルー大柴氏

第41回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール表彰式

JA青森中央会は12月11日、青森市で、青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール表彰式を開いた。

作文部門で蛸澤太一さん（七戸町立天間林中学校3年）の「自慢の手作り米」、図画部門で田村唯さん（八戸市立白山台小学校3年）の「ドライブではいつもおにぎり」が最高賞の県知事賞に輝いた。

作文部門では、蛸澤さんの作品は「生まれてくる孫のために米作りを再開した祖父母の想いと、その米作りを手伝う本人の想いが暖かく表現され、明日への希望を感じられる作品」として評価された。

田村さんは「ドライブの車内で家族がおにぎりを食べている雰囲気がとてもよく伝わり、食べる姿を生き活きと表現した作品」として評価された。

同コンクールは、お米・ごはん食の大切さを、



▲受賞した小中学生ら

小中学生に理解してもらうことを目的に実施。22年度は作文部門で249点、図画部門で205点の応募があった。

その他、入賞作品は次のとおり。

▽県教育委員会教育長賞 作文部門＝畑山慶治さん（十和田市立南小学校6年） 図画部門＝木村倫都さん（青森市立浦町小学校5年）

▽県農協中央会会長賞 作文部門＝駒沢吉紀さん（三沢市立おおぞら小学校2年） 図画部門＝松家杏実さん（八戸市立白銀南中学校1年）

ＪＡグループ青森にＪＡグループ栃木が 8月豪雨災害見舞金

ＪＡグループ栃木を代表しＪＡ栃木中央会の野口隆夫専務が12月13日、青森市を訪れＪＡ青森中央会の雪田会長に、ＪＡグループ青森への8月豪雨災害見舞金を贈呈した。

野口専務は「1日も早い復興を願っております」と述べ、雪田会長は「お忙しい中、来県下さり大変ありがとうございます。被災した組合員のため有効に活用させていただきます」とお礼を述べた。

青森県の農業関係被害額は約155億円となっており、春掘りのナガイモなどの地下作物の全容が把握できていないため、さらに被害が膨らむ可能性がある。



▲野口専務から見舞金を受け取る雪田会長（左）

県産品の輸出拡大を狙う 県知事表敬訪問

ＪＡアオレンの小笠原康彦会長は12月8日、事業提携しているロブソン株式会社（東京都千代田区）の日高拓也社長らとともに、県産リンゴと桃を使った新商品のジュースをマレーシアなどの中東アジア圏への輸出拡大に向けた取り組みについて報告するため、三村申吾県知事を表敬訪問した。

県産リンゴ「トキ」を主体とした「おいしすぎるりんごジュース」（1瓶500ml）、県産桃「川中島」を主体とした「おいしすぎるももジュース」（1瓶500ml）を、早ければ2023年1月初旬より、マレーシアを皮切りにタイ、シンガポールでの現地販売に向けて輸出する。酸化防止剤を使わない同ＪＡ独自の密閉搾り製法で、世界人口の4分の1を占

めるアジア・イスラム圏での新たなマーケットの拡大を目指す。

三村県知事は「アオレン独自の密閉搾り製法は以前からよく知っている。海外輸出に期待できる」とし、ＪＡアオレンの小笠原会長は「ハラル認証を受けた国内初のリンゴ・桃ジュース工場で作った製品である。県産農産物の輸出拡大に繋がりたい」と意欲を述べた。

イスラム教では豚やアルコールを含む食品・調味料を食することは戒律で禁じられている。イスラム法で定める適正な方法で処理、加工された食品であると証明したハラル認証（HALAL）の製品は、イスラム圏内の販売が可能となる。



▲ジュースを試飲する三村県知事に商品を紹介する小笠原会長（中）

行事（1/10～2/10）

1月

- 11日 定例理事会（県農協会館）
- 11日 県参協定例会（県農協会館）
- 17日 第7回東北・北海道農協青年組織協議会委員長・事務局合同会議（ホテルニューキャッスル）
- 18～19日 東北・北海道地区ＪＡ青年大会（ホテルニューキャッスル）
- 19日 新採用職員フォロー研修会（県農協会館）
- 25～26日 監督者研修会（第3回）（県農協会館）
- 27日 営農指導員認証試験（県農協会館）

2月

- 2日 内部監査士検定試験（県農協会館）
- 8日 定例理事会（県農協会館）
- 8日 県参協定例会
- 8～9日 初級職員研修会（第2回）（県農協会館）
- 9日 第6回女性協理事会（県農協会館）

スマートフォンが通帳の代わりに。 「通帳レス口座」の取扱いを開始！

JAバンクでは、2022年11月29日から「通帳レス口座」の取扱いを開始した。

通帳レス口座は、通帳等の発行に代えて、JAバンクアプリにより貯金口座の残高・入出金明細等をご確認いただけるサービス。通帳記帳の手間

も無く、最大10年間分の入出金明細を閲覧できるほか、通帳紛失の心配もなくなる。

通帳レス口座は、JAバンクアプリ上での切替か、JA窓口での貯金口座開設時に通帳レスを選択すればご利用できる。

JAバンクアプリの登録と通帳レス口座への切換え方法は次のとおり。便利なJAネットバンクと一緒に利用するのがおすすめ。



行事 (1/10～2/10)

農林中央金庫

1月

- 11～12日 ライフイベントセールスリーダー養成講座第4部 (ウェブ会議)
- 12日 青森県JA信用担当部課長会議 (ウェブ会議)
- 18日 JAバンク青森運営協議会専門委員会 (ウェブ会議)

24日

第3回証券外務員・内部管理責任者資格試験 (県農協会館)

2月

4日

第52回信用事業業務検定試験 (県農協会館)

農協電算センター

2月

8日

定時取締役会 (県農協会館)

ながいも販売対策会議

JA全農あおもりは11月16日、十和田市の（一社）上十三広域農業振興会で「ながいも販売対策会議」を開き、県内JAから担当者らが出席。令和4年産ながいもの有利販売に向けた取組みや作柄状況を共有するとともに、対策について協議した。

4年産の出荷計画数量は、前年産を27万ケース下回る、210万ケース（前年産対比89%）に設定したことを報告した。1ケース10キロ。販売目標価格は3300円（前年産対比121%）。

4年産の作柄は8月の記録的な豪雨の影響で、曲がりやリングが散見され例年以上に下位等級品の発生割合が高い見通し。収量が前年・平年を下回ると見込まれ、前年産を下回る計画値を設定した。

重点市場に対する計画出荷を基本としながら、下位等級品の対策を最重点に取り組むこととした。特に、業務加工向けへの推進・産地パック品などの企画販売拡充により下位等級品の販売強化を図る。また、食品メーカーや外食チェーンとのタイアップによる消費喚起で購買に繋げ、目標価格達成に努める。

全農あおもりやさい部の坂本浩部長は「販売環境の変化を見極めながら有利販売に繋げ、生産者の手取り確保に努めていきたい」と出席者らに向けて協力を求めた。

JA肥料農薬担当部課長会議

JA全農あおもりは11月17日、青森市の県農協会館で「JA肥料農薬担当部課長会議」を開き、JA担当部課長らが出席。令和5農薬年度農薬取扱要領について協議した。

農薬適正使用に向けた指導を徹底するとともに、担い手直送規格品目の拡大など、生産コストの圧縮に繋げる。

このほか、米、りんご、やさいに関する生産指導情報や昨今の肥料・農薬情勢について共有した。

全農あおもりの成田具洋副本部長は「原料の価格高騰や製造コスト高などの影響で、大幅な値上げとなっている。予約受注による安定供給や担い手直送規格の普及拡大をはかり、生産コストの圧

縮に努めていきたい」と話した。



▲あいさつをする成田副本部長

りんご病害虫効率的防除研修会

青森県りんご共同防除連絡協議会は11月24日、令和5年産りんごの効率的な病害虫防除に向けた研修会を、藤崎町の藤崎町文化センターで開いた。津軽地区のりんご共同防除組合員とJA担当者らが参加し、今年産の病害虫発生状況を踏まえながら、5年産用防除暦の改訂事項について学んだ。

青森県産業技術センターりんご研究所病害虫管理部の石栗陽一研究管理員は、今年の病害虫発生状況について、ハマキムシ類が少なくアブラムシ類が一部園地でやや多かったと説明。参加者は、アブラムシ類への防除対策として「発生が多い園地では展葉1週間後頃にバリアード顆粒水和剤の使用が防除暦に追加された」ことなど、来年産に向けた防除対策を学んだ。他にも、5点の改訂事項について学び、知識を深めた。

県共防連の葛西範正会長は「今年産は6月の降雨と低温の影響で一部さび果の発生が見られた。しかし、生育期間を通じてまとまった降雨があり



▲防除のポイントについて説明する石栗氏

総じて大玉傾向。夏場以降の昼夜の寒暖差により糖度・硬度ともに良好な仕上がりだ。今回の研修内容を踏まえながら適期防除に万全を期し、高品質なりんごの生産に努めて欲しい」と呼びかけた。

25日には南部町のふれあい交流プラザで、県南地区研修会を開いた。

中・晩生種りんご販売対策会議

J A全農あおもりは12月1日、大阪市のホテル阪神大阪で「令和4年産中・晩生種りんご販売対策会議」を開いた。大阪、中・四国、九州地区の取引青果会社や青森県内J Aから代表者らが出席した。販売計画および対策について報告し、目標達成に向けて取引会社に対し一層の協力を求めた。

主力品種「ふじ」の販売計画は、無袋6百万ケース（1ケース10キロ、前年比109%）、有袋62万5千ケース（同、前年比101%）に設定したことを報告。

本年産の品質は、果実肥大・着色は良好となっているものの、硬度・酸度が低く熟度が進んでいることから貯蔵性の低下が懸念されている。つる割れ果の発生が平年より多い見込み。

これを受け、つる割れ果等下位等級品に対する対策を盛り込み、取り組みを進めることとした。売場の確保や消費宣伝会の実施で、生産者の手取り確保に努める。

その他、国内贈答・輸出需要への対応力や、コンビニ・量販店等への企画提案の強化を重点実施策とし取り組む。

全農あomorの笹森俊充副本部長は「品質を重視した前進出荷を基本に円滑な産地・品種間リレーを実践し市場価格の安定化に取り組む。国内外ともに安定的な売場確保に努めていきたい」と

協力を呼びかけた。

2日には港区のアジュール竹芝で、関東・東海地区の取引青果会社を対象に開いた。



▲青果会社に協力を求める笹森副本部長



行事（1／10～2／10）

1月

- 11日 運営委員会（県農協会館）
- 13日 令和4年度ながいも・にんにくフォーラム（J A十和田おいらせ）

2月

- 8日 運営委員会（県農協会館）

毎月放送！「Fresh Vegetable」

12月2日放送

J Aゆうき青森「ながいも」



放送内容は
こちら



今後の放送スケジュール 夕方6時56分から！

- ・1月13日 J A十和田おいらせ「タラの芽」
- ・1月27日 J A八戸「寒締めほうれんそう」



スマイルサポーター交流集会の開催

JA共済連青森は11月28日、青森市のホテル青森で「令和4年度スマイルサポーター交流集会」を開催した。

事例の共有や日常の課題と解決策の検討を通じた窓口対応力の強化、および利用者満足度向上を目的に実施された。

スマイルサポーターの役割とカウンターセールス強化に向けた取り組みについての説明のあと、9名1グループとなってグループ討議が行われた。グループ討議は、事前に作成していただいたプロフィールシートに基づき、座長を中心にテーマに基づいた自分自身の取り組みを発表しながら意見交換を行った。



▲挨拶をする七戸事業推進部長

共済事業担当常勤理事会議の開催

JA共済連青森は12月7日、青森市の県農協会館で「共済事業担当常勤理事会議」を開催した。

はじめに沼田本部長より挨拶があり、全JAが目標達成に向けた推進活動において、専務・常務より後押しをさせていただいていることに感謝を述べ、残り4か月についても、目標達成に向け更なる後押しをお願いした。次に、推進実績状況を説明し、その中で、LA活動について、訪問量を増やしながら質を高めていくことが重要であることを伝えた。

本会議では、令和4年度推進総合目標ならびに共栄火災商品目標達成に向けた取り組みの確認・共有と併せて、令和5年度事業計画・業務計画の協議が行われた。



▲挨拶をする沼田本部長

JA共済ヘルスアップ講座の開催

JA共済連青森は12月14日、弘前市のホテルニューキャッスル弘前で「JA共済ヘルスアップ講座」を開催した。

第2回目の開催となり、組合員とその家族および地域住民を対象に、総勢約110人が参加した。

講座では、JA共済がJA女性組織の健康づくりのために開発した「JA共済レインボー体操」、弘前大学大学院医学研究科社会医学講座特任教授の中路重之氏による「短命県返上活動とメタボリックシンドローム」と題した講演とヘルスチェック、日本整形外科学会理事・青森県立中央病院整形外科統括部長の伊藤淳二氏による「骨の健康診断～ロコモ・骨粗鬆症と認知症について～」と題した講演とヘルスチェックが行われた。

昼には青森県産食材をふんだんに使用した、彩り豊かな「JA健康寿命100歳弁当」を提供し、講演終了後にはテレビでお馴染みのお笑い芸人おぼん・こぼんの漫才により、会場は参加者の笑顔と笑い声にあふれていた。

また、会場付近に「健康づくりブース」を設置し、「立ち上がりボックス・血圧計・体組成計・握力計」で、自身の健康状態を確認する参加者が見受けられた。



▲中路重之氏による講演



▲健康づくりブースで体組成計を体験する参加者

行事（1／10～2／10）

- | | |
|-----|--------------|
| 1月 | |
| 11日 | 運営委員会（県農協会館） |
| 2月 | |
| 8日 | 運営委員会（県農協会館） |

2022年を振り返る

青森県の農業・JA主要ニュース

2022年の本県農業・JAを振り返ると、8月3日からの断続的な大雨に伴い、ほぼ県内全域で農作物などが大きな被害をうけ、いまだ災害の全容が見えず影響が長期化する状況にあります。さらには、長期化するウクライナ情勢、世界的な資源確保競争の激化による生産資材や原油価格の高騰により、食料安定生産がおびやかされる状況にあります。

このような情勢を踏まえて、JAグループ青森は、県選出国会議員、県知事へ農業生産資材価格高騰などにかかる要請を実施しました。

また、JAグループ青森は、令和4年2月に開催した第29回JA青森県大会において、前回大会決議の「10年後も元気な農業と地域」の達成をめざし、現在実践している取組事項の“さらなる深化”により、私たち自身と、その先の世代に続く“持続可能”な農業と地域の実現をめざすことを確認しました。自己改革についても、計画・実践と進捗管理などのPDCAサイクルによる不断の自己改革を実践し、協同組合としての社会的役割の発揮に取り組むことを確認しました。

1月

●管理・経済システム「ATLAS」県内すべての10JAで導入（1／4）

JA青森中央会が導入を進めてきた「青森県JA総合情報システム（アトラス）」を、JAごしよつがるが導入し、本運用を開始した。これにより県内の総合10JAすべてにおいて、会計処理および電子帳票の管理が統一されるとともに、効率的な運営が可能となった。

3月

●JA教材本贈呈式（3／30）写真③

JA青森中央会とJAバンク青森は、青森市の県教育委員会を訪れ、小学校5年生向けの教材本を寄贈した。教材本は県内の農林水産団体などが食農教育用に編集・発行する「いのちはぐくむおおもりの農林水産業」とJAバンク発行の「農業とわたしたちの暮らし」の2種類。4月初旬までに県内の小学校と特別支援学校などへ、それぞれ1万300部を配布した。

2月

●第29回JA青森県大会（2／25）写真①

JAグループ青森は、「持続可能な農業と地域の実現～10年後も元気な農業と地域をめざして～さらなる深化を！」をテーマに、第29回JA青森県大会をウェブ会議システムで開いた。農業就業人口や耕作面積の減少など、県内農業の現状と課題を共有し、今後3年間で取り組む4つの重点目標を決議した。

4月

●JA青森県青協が総会 70周年記念式典開催に向け更なる団結へ（4／12）

県農協青年部協議会は、青森市で2021年度通常総会を開き、役員およびJA青年部長ら約30人が出席した。21年度の活動報告や22年度の活動計画を承認。22年度もJAつがる弘前青年部の成田啓輔さんを委員長に選任した。

3月

●お米・ごはん食の理解醸成へ 元気モリモリ青森のお米公開トーク（3／13）

JAグループ青森と県農協農政対策委員会は、YouTube ライブ配信で「元気モリモリ青森のお米公開トーク」を実施した。視聴回数は、県内だけではなく、東京・名古屋・大阪・福岡などで合計660回に上った。第1部では、料理研究家のきじまりゅうたさんが健康なお米ごはん食について講演した。第2部では、お笑い芸人の小島よしおさんが、歌や定番の芸を披露した。

5月

●2022あおもり桜マラソンに協賛（4／17）

写真④

JA全農あおもりが協賛する「2022あおもり桜マラソン」が、青森市で開かれた。フィニッシュゲートが設置された青い海公園（青森市）にスポンサーブースを出展し、青森いきいきやさいレディの2人がランナー1000名を対象に「県産品ふるまいセット（県産米「青天の霹靂」の「おにぎり」等）」を配布した。

●交通安全教育車（ふれあい号）搭載機器の寄贈式（3／29）写真②

JA共済連青森は、青森県免許センターで青森県警察本部に対し、交通安全教育車（ふれあい号）搭載機器を寄贈した。この活動は、地域住民の交通安全意識の高揚と交通事故の未然防止が目的。

●第68回女性協通常総会（4／20）

県JA女性組織協議会は、青森市で2021年度通常総会を開き、提案した全5議案が承認された。参加者は検温と手指消毒を実施、座席間にアクリル板を設置するなど、感染対策を行い、女性部役員ら約90人が参加した。

●県選出国会議員要請（5／12）写真⑤

JA青森中央会と県農協農政対策委員会は、衆参議員会館で県選出国会議員7人に対



5月

して食料安全保障の強化に係る要請を行った。JA青森中央会の雪田徹会長の要請に対し、江渡聡徳自民党青森県連会長は「原油価格の高騰を始めとする様々な課題があることは承知している。我々も今まで以上に汗を流していく」と力強く述べた。

●自民党若手議員との意見交換会（5／14）

県農協青年部協議会の成田啓輔委員長は、青森商工会議所連合会や県漁協青年部連絡協議会の青年部員らとともに、青森市で自民党若手議員との意見交換会を行った。成田委員長は原油・資材価格の高騰に触れ、「再生産が難しい状況にあるため、早急に対応していただきたい」と述べた。

●県農協生活指導員連絡協議会通常総会

（5／18）

県農協生活指導員連絡協議会は、青森市で通常総会を開き、県内JAの生活指導員ら17人が出席した。役員改選では、会長に今暁子さん（JAつがるにしきた）、副会長に石塚選子さん（JAゆうき青森）を新たに選任。

●令和4年度県JA女性大会（6／6）写真⑥

県JA女性組織協議会は、青森市で令和4年度県JA女性大会を開いた。県内各JA女性組織から約100人が参加。組織活動体験発表コンクールでは、優秀賞に「女性部の新たな出発」を発表したJAつがる弘前女性部の成田縫子さんを選んだ。組織が抱えている問題点を整理、協議し新たな枠組みを作ることとで解決へと導いた点が評価された。

●県選出国会議員へのJA代表者等要請集会

（6／20）

JA青森中央会の会長で、県農協農政対策委員会の雪田徹委員長は、青森市で自民党県連会長の江渡聡徳衆議員ら県選出国会議員6人に食料安全保障の確立ならびに農業生産資材高騰等に関する要請を行った。

6月

●県知事・県議会議長要請（6／22）

JA青森中央会の会長で、県農協農政対策委員会の雪田徹委員長は、青森市で蛭沢正勝副議長と青山祐治副知事に農業生産資材高騰に関する要請を行った。要請では新型コロナウイルス、ウクライナ侵攻などを背景とした、原油・農業生産資材の高騰により農業経営の急激な悪化と長期化が懸念されることから、農業経営の安定化に向けた支援の強化を求めた。

●令和4年度農業所得向上・新型コロナ早期終息祈願（7／7）写真⑦

県農協農政対策委員会は、青森市で2022年度「農業所得向上・新型コロナ早期終息祈願」を行なった。委員長の雪田徹JA青森中央会会長と常任委員ら16人が神殿に玉串をささげ、県内農作物の豊穰、農畜産物価格の上昇、農作業の安全と新型コロナウイルスの早期終息を祈願した。

●県内イオンで県産品フェア

（7／8～10）写真⑧

県は今年度第1回目となる青森県産品フェアを開いた。イオン東北㈱とのタイアップ企画で、県内のイオン・マックスバリュ28店舗で「めじゃー市」「うまいもの市」を展開。青森市のイオン青森店で開かれたPRセミナーでは、三村申吾県知事やイオン東北㈱佐々木智佳子副社長、JA全農あおもりの桑田徳文県本部長らが、消費者に向けて県産品の消費拡大を呼びかけた。

●県選出国会議員要請（7／21）写真⑨

JA青森中央会と県農協農政対策委員会は、衆参議員会館で、衆議院の津島淳議員や参議院の田名部匡代議員ら県選出国会議員7人に対して生産資材高騰対策にかかる緊急要請を行った。JA青森中央会の雪田徹会長の要請に対し、津島議員は「このままでは農家が離農を考えてしまう状況にあるため、危機感を持って取り組みたい」と述べた。

7月





8月

●「J Aグループ青森 令和4年8月豪雨災害対策本部」を設置（8／24）写真10

J Aグループ青森は、県連代表者による常参会議を開き、「J Aグループ青森 令和4年8月豪雨災害対策本部」の設置を決めた。津軽地区を中心にほぼ県内全域で3日および9日～11日の断続的な大雨の影響により河川が増水・氾濫。農作物等への浸水・冠水被害が甚大となった。同対策本部はJ A青森中央会に事務局を設置し、作物別等の被害状況の把握、被災農家への支援策、行政等に対する要請活動を実施する。

●東北北海道地区J A女性組織協議会リーダーおよびフレッシュミズリーダー合同研修会（8／23～24）

東北北海道地区J A女性組織協議会は、東北北海道地区J A女性組織協議会リーダーおよびフレッシュミズリーダー合同研修会を八戸市で開き、東北6県と北海道の女性部員ら約120人が出席した。組織活動発表では各道県から推薦された7人が発表。

●令和4年8月豪雨災害に関する県知事要請（8／31）写真11

J A青森中央会の会長で、県農協農政対策委員会の雪田徹委員長は、県知事に「令和4年8月豪雨災害に関する要請」を行った。8月3日からの断続的な大雨に伴う河川の増水・氾濫はほぼ県内全域で大きな被害となり、いまだ災害の全容が見えず影響が長期化することが予想される。このままだと産地の維持に支障をきたしかねず、農業経営の安定化に向けた支援の強化が必要となるため要請を行った。

9月

●J A鹿児島県中央会からJ A青森中央会に8月の豪雨災害に対する見舞金（9／14）写真12

J Aグループ鹿児島を代表しJ A鹿児島県中央会山野徹会長が、青森市を訪れJ A青森中央会雪田徹会長に、J Aグループ青森への

9月

豪雨災害見舞金を贈呈した。

山野会長は「この度の豪雨災害をとっても心配しています。1日も早い復興を願っています」と述べた。

●無償食品提供にかかる協定締結（9／25）

J A青森中央会と県社会福祉協議会は、青森市の指定障害者支援施設「りんどう苑」で、子育て家庭や生活に困りごとを抱える方へ「青森子ども宅食おすそわけ便」として、県産米「まっしぐら」（2^{キロ}）と日用品を提供し、当日は24世帯へ配布した。配布に先立ち、協定書の締結式が行なわれ、中央会の雪田徹会長と協議会の高杉金之助会長が協定書に調印を行なった。

●新品種「はれわたり」デザイン・販売日が決定（9／26）写真13

2022年産より県内で先行販売される期待の新品種「はれわたり」。三村申吾県知事は、県庁で同デザインを公表。どこまでも晴れわたる青森の空をイメージしたもので、背景は「空色」、文字は「陽の色」に。「藍色」の文字も合わせ2色を引き立てる。空色に白色のシギを描き大空へ羽ばたく様子をデザインしている。

県内先行販売開始日は「10月29日」と発表。

10月

●県産米贈呈 青森中央学院大学・青森中央短期大学（10／11）写真14

J Aグループ青森は新型コロナウイルス感染拡大の影響により経済的な影響を受けた県内16の国公立大学・短期大学の学生を対象に県産米を贈っている。青森中央学院大学・青森中央短期大学で行った贈呈式ではJ A青森中央会の野呂文人農業対策部長が学生代表の同短期大学幼児保育学科2年の工藤雅さんに県産米「まっしぐら」2^{キロ}などを手渡した。





10月

● J A グループ基本農政確立全国大会・食料安全保障等の強化に向けた重点要請 (10/14) 写真13

J A 全中と全国農業者農政運動組織連盟は、東京都で食料安全保障の強化と持続可能な農業・農村の実現に向けた万全な予算の確保と政策の確立をめざし、J A グループの意思結集と反映を図ろうと J A グループ基本農政確立全国大会を開いた。全国から約4100人、J A グループ青森からは中央会長・J A 組合長ら17人が参加した。同日、大会を前に J A 青森中央会と県農協農政対策委員会は本県選出国会議員7人に「食料安全保障等の強化に向けた重点要請」を行った。

● 新品種「はれわたり」精米・袋詰め作業開始 (10/24、25) 写真16

2022年産より県内で先行販売される期待の新品種「はれわたり」。10月29日からの販売開始に向けて、J A 全農あおもりパールライスセンターでは精米、袋詰めを開始した。初回納入分として約2万5000袋（1袋2*₅₀）を袋詰め。原料は全て県内 J A から仕入れたもの。26日から県内スーパーへ順次出荷となり、29日に店頭に並んだ。

● 県選出国会議員に対し県農協青年部協議会が要請 (11/2) 写真17

県農協青年部協議会の成田啓輔委員長は、県選出国会議員7人に対し、持続可能な農業の実現に向けた要請を行った。10月31日、11月1日に開いた J A 全青協の会議で議論し作成した要請書その他、県独自に8月の豪雨災害対策や配合飼料価格高騰対策などを口頭で要請し、営農継続に不安を覚える青年部員の切実な声を直接届けた。

● 第13回津軽海峡交流圏「大農林水産祭」 (11/12、13) 写真18

J A 青森中央会などの構成団体からなる津軽海峡交流圏「大農林水産祭」実行委員会が主催する第13回津軽海峡交流圏「大農林水産

11月

● J A 青森中央会に8月豪雨災害見舞金 (11/17、22)

11月17日 J A グループ山形を代表し J A 山形中央会の折原敬一会長が、22日 J A グループ福島を代表し J A 福島中央会の管野啓二会長が青森市を訪れ、J A 青森中央会の雪田徹会長に、J A グループ青森への豪雨災害見舞金を贈呈した。

● 県青年部協議会創立70周年記念式典 (12/1)

県農業青年部協議会は、「青森県青年部協議会創立70周年記念式典」を青森市で開き、中央会や各連合会、県女性協、全青協の代表者や過去20年間の歴代委員長、県内青年部員ら約110人が参加した。式典では、歴代委員長への表彰や記念誌「県青協70年史 一過去20年のあゆみを振り返って」の紹介などを行った。

12月

● 第41回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール表彰式 (12/11)

J A 青森中央会は、青森市で、青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール表彰式を開いた。作文部門で蛸澤太一さん（七戸町立天間林中学校3年）の「自慢の手作り米」、図画部門で田村唯さん（八戸市立白山台小学校3年）の「ドライブではいつもおにぎり」が最高賞の県知事賞に輝いた。22年度は作文部門で249点、図画部門で205点の応募があった。

11月



畑作物の直接支払交付金(ゲタ対策)にご加入の皆様へ「重要なお知らせ」

令和5年産から交付単価が、次の2つに分かれます。

免税事業者向け単価 と 課税事業者向け単価

免税事業者向け単価を申請する方は、令和5年度の交付申請から
2年前の確定申告書等の提出が必要です！
※収入・売上が1千万円以下であることを確認します。

◇免税事業者向け単価の適用者は、消費税の免税事業者

◇課税事業者向け単価の適用者は、

- ① 消費税の課税事業者(簡易課税事業者含む)
- ② 組織として確定申告していない集落営農



1. 提出する書類について

各書類は税務署の受付印が押印されたものを提出してください。

【消費税の免税事業者】

- (1) 個人の方は、2年前の確定申告書B(写)及び青色申告決算書(写)又は白色申告収支内訳書(写)の農業所得用
- (2) 法人(人格なき社団含む)の方は、2期前の各事業年度の所得に係る確定申告書(別表1)(写)
- (3) 個人で営農開始3年未満の方は、個人事業の開業・廃業等届出書(写)
- (4) 法人で設立初年度の方は、法人設立届出書(写)等
- (5) 法人で設立2期目の方は、法人設立届出書(写)等及び前期の各事業年度の所得に係る中間申告書(別表1)(写)

【消費税の課税事業者】提出する書類は、これまでと同じです。

2. 書類提出の期限等について

(1) 提出期限

令和5年6月30日までに交付申請書(様式第1号)に添付して提出してください。

(2) その他注意事項

免税事業者向け単価適用の要件を満たしていることが確認出来ない場合は、課税事業者向け単価が適用されます。

3. 平均交付単価

※青森県の主要品目のみ掲載しております。

	小麦 (円/60kg)	大豆 (円/60kg)	そば (円/45kg)	なたね (円/60kg)
現行平均交付単価 (R2~4)	6,710	9,930	13,170	8,000
課税事業者向け 平均交付単価	5,930 (▲780)	9,430 (▲500)	16,720 (+3,550)	7,710 (▲290)
免税事業者向け 平均交付単価	6,340 (▲370)	9,840 (▲90)	17,550 (+4,380)	8,130 (+130)

(注) 免税事業者向け単価には消費税負担分が含まれており、課税事業者向け単価には消費税負担分の金額が含まれておりません。

2次元コードはこちら↑



経営所得安定対策に関する詳しい情報は、ホームページでご覧になれます。

https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/antei/keiei_antei.html



経営所得安定対策



輝き

JA全農あおもり
米穀部 米穀流通課
たけむら あゆみ
竹村 歩己 さん

●プロフィール

2021年4月から勤務 弘前市出身 24歳

働くきっかけは？

実家が農業を営んでいることもあり、農業に携わる職に就きたいと思っていました。農業関係の中でもJAグループは身近な存在であったため、選択肢に入りました。

業務内容を教えて下さい。

青森県産米の出荷手配や伝票処理を行っています。

働いた感想は？

入会前は、外勤が多いのかなと想像していましたが、一日中デスクワークでギャップを感じました。特に電話対応が多く、今でもなかなか慣れません。

仕事をする上で、日頃心がけていることは？

些細なことでもメモを取ることを大事にしています。私はかなり忘れっぽいので逐一メモし、仕事の処理に不備が無いよう心掛けています。

特技・趣味は？

スキーが好きで、冬になるとよく近くのスキー場へ滑りに行きます。スノーボードに乗ったことが無いので機会があればチャレンジしたいです。

あなたが自慢できることは？

高校時代に、フォークリフト、大型特殊、車両系の免許を取ったことです。未だに活かされた試しはありません。

将来の夢は？

平屋に住みたいです。

JA人の動き

〇JA常盤村養鶏（令和4年12月12日付）

代表理事組合長 古川 治（新）

催事カレンダー

開催日時	JA名	イベント名	開催場所	問合せ先		備考
				部署	電話番号	
2月1日～2月2日 10時～16時	JA全農あおもり	第17回JAグループ 国産農畜産物商談会	東京都立産業貿易 センター浜松町館	広報宣伝総合課	017-729-8637	※1日は17時まで

後編 記集

遅くなりましたが、新年あけましておめでとうございます。今年も「絆」をよろしく願いいたします。

さて、旧暦1月を睦月（むつき）、新暦1月の別名、名前の由来は、親族一同集って宴をする「睦び月（むつびつき）」が最も有力です。英語のJanuaryは、ローマ神話の出入り口とドアの神ヤヌスにちなむ。年の入り口にあたることから、お正月は福の神をお迎えする日、元旦に掃除を

するとわざわざやってきた福の神を掃き出すと言われ、縁起の悪いと言われます。1月22日は、学校給食開始35年を記念し、全国の学校給食のメニューをカレーにしたことから、カレーの日になりました。

以上、1月についての豆知識でした。

それでは皆様、「SEE YOU ON FEBRUARY!!」
(一)



ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧いただけます。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.or.jp/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組を紹介しております。

伝えたい人に、 伝える、伝わる。



JAグループの広報・PRは日本農業新聞の広告で。

広告媒体

日本農業新聞



全国のJAなどが出資し、農業の専門紙では唯一の日報として全国31万部発行※しています。農家組合員とJAグループ、地域をつなぐ全国メディアです。



※日本ABC協会認定
2020年1~6月平均販売部数

日本農業新聞Web



農業関係のWebメディアの世界でも有数のページビューがあり、(2020年度月間平均PV数100万)、農業関係者だけでなく、幅広いユーザーに閲覧されています。記事を配信しているYahoo!ニュースからも、多くのユーザーが流入しています。

フレマルシェ



JAのファーマーズマーケットを中心に全国で25万部を配布するフリーマガジンです。食や農業に関する多様なコンテンツを掲載。食に関心の高い30~60代の女性などの消費者がメイン読者です。

お問い合わせは、日本農業新聞広告部

【Eメール】 koukoku@agrnews.co.jp

【TEL】 03-6281-5810



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

家の光

12月号から
新連載開始!

高尾美穂の
らくヨガ

10分あったら
やってみよう

毎月のお楽しみ記事が
ますます充実!

ぜひご購入ください

定価(税込)
●普通月号 629円
●付録月号(1・4・5・7・9月号) 922円
●家計増付き12月号 1,027円

JAグループ 家の光協会
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>

お申し込みはお近くのJAへ



つがるロマン
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂
SEITEN NO HEKIREKI



まっしぐら
MASSHIGURA

青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部
aomori-komehonbu.gr.jp



©やなせたかし



全国旅行支援 1月10日以降(予定)

ひとり一人の感染防止対策で、安全・安心な旅を♪

出張に! 家族旅行に! お友達と! 冬の旅を楽しみませんか。
農協観光では全国の宿泊・交通付(JR・航空等)宿泊パックを取扱いしております。
是非、下記までお問い合わせください。

(メールでお問い合わせの方は右記QRコードからお問い合わせください)

※キャンペーン適用には、「ワクチン3回接種証明」または「PCR検査等の陰性証明」の提示が条件となります。



12月22日時点での情報です

割引金額(お一人様)
最大20%割引!
宿泊のみ(上限3,000円割引)
交通付パック旅行(上限5,000円割引)

さらに!! お一人様
平日**2,000円分**
休日**1,000円分**
クーポンプレゼント!

お申込み・お問い合わせは



観光庁長官登録旅行業第939号
ふれあいコーディネーター。エヌ・ツアー。
株式会社農協観光 青森エリアセンター
☎017-729-8800 FAX 729-8803
〒030-0847 青森市東大野2-1-15 青森県農協会館1F
総合旅行業務取扱管理者 鈴木 光輝
営業時間: 平日9:00~17:30(土日・祝日休み)
当面の間、毎週水曜日もお休みとさせていただきます



株式会社農協観光代理業
青森県知事登録旅行業者代理業第26号
JA ゆうき青森旅行センター
☎0175-72-1433



作品紹介

令和4年度 青森県やさしい作品コンクール（図画の部）



■最優秀賞 低学年
「にげて行かないでね だいこん」
青森市立浦町小学校
2年 山崎 水琴



■最優秀賞 中学年
「おもしろい大根とれたよ」
三沢市立岡三沢小学校
4年 大沼 那緒



■最優秀賞 高学年
「ながいも畑の四季」
十和田市立三本木小学校
6年 清水 想